



## 医療安全通信 第72号

【薬局部 医療安全委員会】

医療安全推進のため、Pharma Bridgeを通じて、医療安全上の周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信いたします。業務手順書の書換えや日常業務にお役立てください。

### クレメジン（球形吸着炭）を他剤と併用する場合

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業の「共有すべき事例」2019年 No. 8には『クレメジンが他剤と同様に食後で処方された』事例が掲載されています。

[http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing\\_case\\_2019\\_08.pdf](http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing_case_2019_08.pdf)

#### ◆ 事例の内容

【原文のまま抜粋】

今回よりクレメジン細粒分包2g 6g分3毎食後28日分が処方に追加された。患者は、定期薬としてシンバスタチン錠10mg 1錠分1夕食後、イルアミクス配合錠HD 1錠分1朝食後、ウルソデオキシコール酸錠100mg 3錠分3毎食後を服用していた。クレメジン細粒分包2gと同時に服用することにより他の薬剤の効果が減弱する可能性があるため、疑義照会を行ったところ、クレメジン細粒分包2gが毎食間に変更となった。

#### ◆ 背景・要因

他剤との相互作用を考慮せずに、クレメジン細粒分包2gの服用を毎食後としたと考えられる。

#### ◆ 薬局が考えた改善策

処方が追加された時は、他剤との相互作用などを確認する。

#### ◆ その他の情報

クレメジンカプセル200mg／細粒分包2g

○添付文書（一部抜粋）

【使用上の注意】

2. 重要な基本的注意

(5) **他剤を併用する場合、本剤は吸着剤であることを考慮し、本剤との同時服用は避けること。**

○インタビューフォーム（一部抜粋）

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

<解説> (5) 他剤と同時に服用した場合、他剤の血中濃度を低下させることが報告されている。**他剤服用後、30分から1時間以上あけて服用すること。**ただし、他剤の効果には十分注意すること。

#### ◆ 事例のポイント

○クレメジンカプセル200mg／細粒分包2gは吸着剤であることから、他に薬剤が処方されている場合は、服用する時間をずらして、食間とすることがある。

○食間とは、食事と食事の間のことであるが、食事の最中だと考える患者もいるため、薬袋の記載や患者への説明は「食後2時間」とするなど、患者にわかりやすく伝えることが望ましい。

クレメジン（球形吸着炭）は高純度の多孔質炭素からなる球形微粒状の経口吸着薬で、内服により慢性腎不全における尿毒症毒素を消化管内で吸着し、生体内に吸収されずに便とともに排泄されることで、慢性腎不全保存期における尿毒症症状の改善や透析導入に至るまでの期間を延長する慢性腎不全用剤です。後発品を含めて、細粒分包2g、速崩錠500mg、カプセル200mg／286mgがあります。用法用量は「通常、成人に1日6gを3回に分割し、経口投与する。」で、**食事の30分前の服用と30分後の服用との間に、血清クレアチニン値の上昇抑制効果、尿毒症症状改善効果、累積透析導入率の有意な差は認められなかった**という報告があります。ただし、**他剤と同時に服用した場合、他剤の血中濃度を低下させる**ため、食後に他剤を服用している場合には、**他剤服用後30分から1時間以上あけて球形吸着炭製剤を服用する**ことが必要です。クレメジンを先に服用した場合の他剤との投与間隔については、目安の時間が示されていません。

カリウム吸着剤（ポリスチレンスルホン酸ナトリウム（ケイキサレート等）、ポリスチレンスルホン酸カルシウム（カリメート、アーガメイト等））については、互いに吸着して効果が減弱する可能性は低いと考えられ、同時服用は可能と考えられています。ただし、両剤ともに単剤投与で便秘の副作用報告があり、併用により便秘を増長する可能性がありますので、注意が必要です。

#### ◀ 引用資料 ▶

- ・クレメジンカプセル200mg／クレメジン細粒分包2g インタビューフォーム
- ・田辺三菱製薬株式会社 ホームページ：クレメジンQ&A 2019年11月14日アクセス

旭川薬剤師会公式サイトに医療安全通信のバックナンバー、掲載資料、リンク先を掲載しています。

